

## マックス株式会社 2022 年3月期第3四半期 決算説明会 質疑応答録

この質疑応答録は、2022 年 2 月 1 日（火）に開催したアナリスト、ファンドマネージャー向け決算説明会電話会議にて、ご参加の皆様からいただいた質問とその回答の概要です。

### ■インダストリアル機器部門について

〔質問 1〕

コンクリート構造物向け工具の今期第 3 四半期と前期第 3 四半期の売上実績を教えてください。

〔回答 1〕

コンクリート構造物向け工具の今期第 3 四半期（3 ヶ月間）の売上実績は、海外 43 億円、国内 13 億円となりました。前年同期の実績は、海外 30 億円、国内 11 億円でしたので、海外は 45%の伸長、国内は 13%の伸長となりました。

機械と消耗品でみますと、海外の機械は 70%の伸長、消耗品は 35%の伸長となりました。国内の機械は 20%の減少となりましたが、消耗品は 30%の伸長となりました。

数量ベースでは、北米は機械 60%、消耗品 20%の増加、欧州は機械 50%、消耗品 20%の増加となりました。

〔質問 2〕

海外の鉄筋結束機事業が好調な要因を教えてください。

〔回答 2〕

米国の建設支出額や新設住宅着工戸数の堅調な推移及び欧州の大規模公共投資によるインフラ需要の高まりなど建設現場の活況に加えて、販売チャネルの強化をはじめとする自社取組の推進が、鉄筋結束機事業が好調な要因と考えています。

〔質問 3〕

国内のコンクリート構造物向け工具の販売が鈍化している要因を教えてください。

〔回答 3〕

既存市場で鉄筋結束機の従来品から「ツインタイア」への買替がある程度一巡したことに加え、開拓市場と位置付けている土木市場で十分な成果が出ていないことが要因です。土木市場に対しては、ゼネコンやレンタルルートへのアプローチを継続しており、部分的に成果は出ているものの、大きな成果の創出には未だ時間を要すると考えています。

### ■オフィス機器部門について

〔質問 4〕

オフィス機器部門のセグメント利益率が向上した要因を教えてください。

〔回答 4〕

国内外のオフィス機器事業の売上回復及び収益性の比較的高い文字表示機器の伸長が主な要因です。

〔質問 5〕

オフィス機器部門の今後の見通しを教えてください。

〔回答 5〕

オフィス機器部門は、ペーパーレス化の加速や在宅ワークの増加により、オートステープラ事業が徐々に縮小していくことを想定しています。現在注力している文字表示機器を伸長させ、オートステープラ事業の漸減を補うことで、オフィス機器部門全体の収益性を維持していきたいと考えています。

## ■HCR機器部門について

〔質問 6〕

HCR機器部門の収益改善策について教えてください。

〔回答 6〕

現在HCR機器部門では主な収益改善の施策として中国工場の生産性改善に継続して取り組んでいます。この取り組みは一定の効果を生み出していますが、今後は一部製品の内製化や自動化設備の導入によって更なる生産性改善を進めるとともに、既存製品の売価見直し、海外事業の成長などを実現することで、収益が確保できる事業構造を構築していきたいと考えています。また、HCR事業の持つリソースをマックスグループの他事業で活用すべく、検討を進めています。

## ■全社状況について

〔質問 7〕

第3四半期（3ヶ月間）の輸送費の増加状況を教えてください。

〔回答 7〕

前年から約5億円増加しており、第4四半期も同等の増加水準を見込んでいます。特に鉄筋結束機関連製品の海外輸送が増えていることから、インダストリアル機器部門により大きな影響を与えています。

〔質問 8〕

戦略的投資の実行状況を教えてください。

〔回答 8〕

第3四半期終了時点での実績は約4億円で通期見込み8億円に対して進捗が遅れているように見えますが、通期では見込みどおりに実行できる予定です。期首計画10億円からは減額見込みとなっていますが、新型コロナウイルス感染症の影響による市場調査活動の停滞や海外現地人材の流動性の高さが主な要因です。来期以降についても、将来的な事業成長を見据え、積極的な投資を実行していく計画です。

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する内容は、当社が2022年2月1日現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があることをご了承ください。